

どうしたらいい!?

ばくのお芋・わたしのお芋

伊東市立川奈幼稚園（静岡県伊東市）

[5歳児]

<事前の様子> 3～4歳の時から畑に親しみ、ジャガイモ・スナップエンドウなど自分の手で蒔き、みんなで育てる喜びを味わってきた。今までの経験を基に、サツマイモの苗を一人一本、育てることにした。

事前に、良い苗の選び方や植え方、サツマイモが大きくなるために日光や水が必要なことをみんなで確認する。どんな場所に植えたらよいかを考え、100本の苗の中から自分の目で一本を選び、畑の畝の中から植える場所を選び、自分で植える。水の不足、やりすぎで起こる問題についても経験をもとに話し合い、全員で確認する。「大きくなるんだよ」「おいしいお芋になってね」など苗に話しかけ、大切に水をかける。

	子どもの様子	援助(♡) 読み取り(※)
観察・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 毎日様子を見て、大きくなることに期待をもっている。日差しが強いため、水やりをしても葉が焼け焦げ、茎だけになっていく芋を見て、「枯れた」「もう駄目だ」と子どもから声が上がりが始める。 変色し、フニャフニャで枯れたように見える茎の下方から新しい黄緑の小さな芽が出ているのを子どもが発見し、「あっ！俺の死んでなかった！」「よかったな」「もうだめかと思ったけど、水をあげてよかった」「私のも出てきた」「見て！ひまわり組のも出てきたよ」と喜ぶ。 「大変！A君の枯れてるよ！」「A君に教えなきゃ！」「お水、あげてなかったんじゃない？」「A君！ちょっと来て！」友達に呼ばれてA児が畑に行き、芋を見て、「枯れてる…」と言い、(事実を受け入れられず)立ち去る。 	<ul style="list-style-type: none"> ※保育者の介入がなくても、生き物のニュースが子どもの口から口へ伝わり、園全体に広がっていく。3年間の連続した「自然との関わり」が子どもの生活の一部となり、保育者の手を離れた場面でも子どもたちの遊びの中に入り込んでいる。 ※自分で“苗を選び、植える場所を決め、水をあげる”ことにより、愛着が生まれ、芋を毎日観察する目が養われる。「育てる」ことへの関心だけではなく、生命を育てる責任も生じている。
観察・行動	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の援助によって、自分たちだけでは気付かなかったところから芋の生長を感じ取ったり、芋の葉に来る虫を見たりして、芋の側で過ごす時間が増える。「土が見えないくらい葉っぱが出てきたなあ」「芋が大きくなってきたから名前も大きいのに交換しよう」など、進んでかかわる姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ♡「芽が出た」「葉が付いている」だけでなく、保育者が驚いたり喜んだりする姿を見せて「葉や茎の色」「茎の長さや葉の大きさ」など着目点を知らせ、子どもの新たな興味を引き出していく。一緒に草取りをして芋のためにできることを増やし、気持ちが続くようにする。
生長を実感	<ul style="list-style-type: none"> 芋掘りを行事のように取り上げず、日常の保育の一日の中で行う。5歳児から芋を掘り始めると、4歳児、3歳児へと刺激が伝わり、自然に全員が芋を掘り始める。 「僕のは短いけど太いよ」「私のは長～いの」「全部の重さ、僕のすっごく重いよ。持ってみる？」「白菜よりすっごい重いよ！」など、計った結果を友達と比べる。 「〇〇くんの芋、小さいね」「いいんだよ、大きいお芋よりもおいしいんだから」などの会話がある。細い芋しか取れなかった子、モグラに芋を食べられた子もいたが、どんな芋が収穫できた子も、自分の芋を抱いて目を輝かせながら嬉しそうに今までのエピソードを話す。「もう死んだかと思った時もあったけど、こんなに大きくなってよかったよ！」「私のお芋、おいしいよ！だってモグラも食べに来ちゃったんだもん！」と話し、自分の芋のみを持ち帰ることにする。自分の芋でない芋は「いらない」と欲しがらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ※目で見て生長がわかることで、「こんなに大きくなった」と実感している姿が見られた。 ♡白菜の時同様に、芋も重さ、長さ、太さを計るなど、芋の発育測定の結果が記録できるよう、発育カードを用意する。 長さ・太さは紙テープで計り、友達と比べられるようにする。 ※細い・軽いなど比べた時に小さい値であっても、自分の芋に対しての自信を失わず「違っていいんだ」となったのは、今までの芋への愛着、思い出の積み重ねがあったからである。「どんな芋でも自分の芋が大切」という気持ちが強い。

※モグラは肉食です。一般的にもモグラはお芋を食べると話題にされますが、モグラの穴を使ってネズミが食べるようです。

ポイント

枯れそうなお芋の苗に一喜一憂し栽培を始めています。そのため、よく観察をしてかわかり、苗の変化や生長を感じ取り、自分の世話の仕方を振り返ったり考え工夫したりする行動につながっています。こうして長期間かわかる栽培を通して生長を見守ることで「科学する心」が生まれ、大小や重い軽いなどを様々な方法で比較をして楽しむだけでなく、お芋を大切に思う気持ちを自覚する表現が引き出されています。